しいたけ栽培

昭和村では，3軒の大規模しいたけ栽培農家を中心に，村の気候条件を生かして品質の優れたしいたけが作られています。また，その生産額も年ごとに増えています。

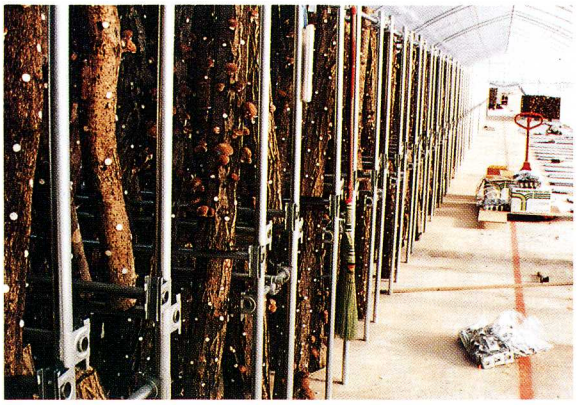
しいたけは，寒暖の差が激しい土地の方が栽培に適しています。それは雑菌の繁殖を防ぎ，肉厚でかさの（直径の）大きい，いわゆるジャンボしいたけが育つからです。

平成6年には，『野尻地区しいたけ生産組合』がつくられました。これまでの雪のある時期のしいたけ栽培は，難しいという常識をくつがえし，雪が深い冬という気候条件を逆に生かそうとする試みが始まったのです。

ビニールハウスのコンクリート床には床暖房が施され，ハウスの中の温度は，常に一定に保たれています。床暖房の燃料は，古くなったしいたけの「ほだ木」を燃やすので，燃料費はかかりません。また，ハウスの周りに積もった雪は，室温を外ににがしにくくする効果も与えてくれています。

雪に包まれたビニールハウスでは夏と比べるとはるかに雑菌の繁殖も少なく，また一定した気温はさらに品質の高いしいたけを生む条件になっています。

この組合では，将来，しいたけの他にもプルーンなど昭和の土地に適した農作物にチャレンジしようと意欲をみせています。



▲ビニールハウス内